

令和元年度協同農業普及事業外部第三者評価会議  
**評価結果に対する普及指導活動への今後の対応について**

**1 普及指導活動の体制について**

評価結果及び改善方向に関する助言、提言		今後の対応
資 質 向 上	<p>生産技術指導と経営指導に加えて、人と人、組織と組織をつなぐ役割が求められてきていることが分かる。むしろ比重が後者のコーディネーター機能に移りつつある中で、普及員の育成をいかにすべきかの検討が必要。</p> <p>指導員の方々が、プロジェクトリーダーの研修をされているのであれば結構ですが、そうでなければ研修に入れるべきではないかと感じた。情報の収集方法や使い方を学べる研修を重ねることで、状況によってどの関係機関とつながるべきかが見えてくる。現在の農業の状況に危機感を持って取り組まれているのであれば、指導員として適性のある方をしっかりと育てることに重きを置かれることを望む。</p> <p>普及員の年齢別構成で50歳以上が43%となっており、10年後を見据えた若年層の育成が大切になる。これはJAグループの営農指導員でも同様の傾向にあり、知識・技術・スキルなど交流研修なども検討してみてもどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及指導員育成計画において、経験年数別及び専門分野別に求められる資質を定め、研修を実施している。</li> <li>・コーディネーターやプロジェクトリーダーの資質向上については、研修で取り組んでおり、今後一層強化する予定である。</li> <li>・JAグループと連携して、改善活動や施設園芸の高度化に関する研修を行っている。引き続き、JAグループとの連携を深めていく。</li> </ul>
体 制 強 化	<p>普及員の長期的な育成と行政や試験場との人事ローテーションとの整合性を考える必要がある。</p> <p>普及の中での担当地区異動も課題の取組状況を踏まえる必要があるが、担当が代わっても活動の蓄積が円滑に継承される仕組みを作ることが重要ではないか。</p> <p>試験場と普及などのジョブローテーションは必要ではないか。試験研究は基礎研究的な要素は別としても現場の課題解決、技術普及に向けた試験研究であるべき。試験研究と普及指導の両面を理解・経験するバランスも必要ではないか。</p> <p>新規就農支援では、技術指導だけでなく、役場、農業、地域の先輩農家のサポートが不可欠。そのマッチング、コーディネートの仕事を普及指導員が担っている。指導員のコミュニケーション力なども大きく影響する。発表事例については、1人で対応できるのか？何人の農家を指導員1人で担当するのか、そのあたりが心配になるものもあった。</p> <p>指導員の方の一人に係る責任が重いのではないかと感じた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブローテーションを行い、幅広い視野をもつ職員を養成するとともに、職員の適性を考慮した人員配置を行っている。</li> <li>・また、普及と農総試との連携会議等などを行い、相互の理解を深めている。</li> <li>・引き続き、様々な立場を理解した普及活動ができるよう努めていく。</li> <li>・普及活動は、農業改良普及課のチームで活動しており、定期的に広域指導室（農業革新支援専門員）による指導を受けながら、進めている。今後も、多くの関係職員が一体となって進めるよう努めていく。</li> </ul>

農業者との意思疎通を図り課題解決のためのモチベーションを継続させるためには、**県全体で担当指導員の方を支えるシンクタンク（上下関係無し）があることが望ましい。**

また、指導員の方は、「指導者」ではなく、農業に特化したコンサルであると立場を意識された方が農業者と共にあるという肌感覚で、協働で普及事業を行っていけるのではないか。

・普及活動の推進に当たっては、普及事業の総括の役割を担う、経験豊富な広域指導室の農業革新支援専門員が、助言・指導をして進めている。

・普及指導員は、農家に寄り添い、農家とともに経営改善に取り組んでいる。さらに問題解決力を向上させて、普及活動に取り組んでいく。

## 2 普及指導活動の計画について

	<p style="text-align: center;">評価結果及び改善方向に関する助言、提言</p>	<p style="text-align: center;">今後の対応</p>
<p>目標設定 (現状分析)</p>	<p>課題の選定は今日的な問題と関り概ね適正。対象の選定や普及活動の計画については、課題に関わる生産構造や市場構造の把握をもっと深めて、ターゲットの絞り込みや目標設定の具体化をすることが必要と思われる。要は、いかに現状を分析して、どこに焦点を据えて普及活動の戦略を立てるかが重要である。</p> <p>新品種や新技術が求められる背景は出されているが、掘り下げた分析（例えば技術格差の実態とその要因分析など）が必要であり、その導入が他部門に及ぼす影響を含めて経営全体がどう変化するか視点はやや弱いように見える。</p> <p>普及活動を行うにあたっては単に一農業者のみのメリット・成果だけではなく、愛知県の農業全体に対するメリット・成果を意識する必要がある。テーマの選定、発表の内容など全ての部分に「愛知県全体への波及効果」を明示していただきたい。このことは、一普及員だけではなかなか難しいので、組織として情報提供や協力体制などのサポートをしっかりとっていくことが必要。</p> <p>県育成の新品種の普及について、普及の戦略がよく見えない。そもそもの開発コンセプトの問題か？</p> <p>就農者の高齢化、新規就農者の確保、新品種の育成、高品質技術の取組などの目標設定は良いと思う。県がせっかく開発した良い物をなるべく多くの農家が認めてくれるよう努力が大切ではないか。</p> <p>発表された4事業とも、取り組みは素晴らしいが、はつらつ農業塾以外はゴールがよく分からなかった。今の結果で満足いくものなのか？</p> <p>県の育成種に関しては、地域でなく、県としてのゴールを持つべきでは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及指導計画は、普及指導員が、現場の農家との会話や関係機関からの情報、現状分析の手法による問題発見を行い、産地・経営の目指すべき目標を計数化して、具体的な目標設定となるよう留意しながら、策定していく。</li> <li>・また、技術の経営的な評価のスキルなどを更に強化しながら、農家のあるべき姿など目標の設定や指導計画の策定・評価を行っていく。</li> <li>・県の農業生産を強化するために、技術普及の目標を明確にして、成果を評価していくことが重要である。普及計画はPDCAを考慮して推進しているが、今後は、農総試や行政とも連携を深め、現場ニーズに合った技術開発と普及を進めていく。</li> <li>・農総試で開発した技術や品種については、県全体で目標を検討しながら、県全体の普及計画を策定して推進していく体制としていきたい。</li> </ul>
<p>計画作成</p>	<p>特に農業団体とは産地振興や営農指導など方向性をしっかり合わせたうえで一体的に取り組みを進めていただくようお願いしたい。</p> <p>食と緑の5か年基本計画に基づく品目別振興方針となっているか、その方針に沿った実践計画としての普及指導活動となるよう体系化された計画となっているか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、農業団体と具体的な目標を共有した品目別の推進方策を検討しており、次年度以降本格的に推進する予定である。</li> <li>・令和2年度は、次年度からの5か年の普及指導基本計画を検討する。現状分析をしっかりと行い、各部所の計画と整合性を取りながら課題を整理していく。</li> </ul>

中間評価	<p>目標設定については、対象者と相談しながらされているとは思いますが、早期達成した時に、次の目標をそのまま数値が伸びていけば良いということではなく、農業者として、働き方も含め、何を伸ばして何を削っていくべきか時期を逃さず指導できるとよいと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>普及計画の推進に当たっては、対象農家の変化を捉えて、PDCAサイクルを回して、農家の経営発展の段階に応じた支援をしていく。</li></ul>
------	--	---

### 3 普及指導活動の経過、実績及び成果について

	評価結果及び改善方向に関する助言、提言	今後の対応
評価方法	<p>費用・収益の把握・分析が十分とはいえない。データが取りづらいという問題があるが、普及において重要であるので避けられない。</p> <p>普及の成果は、数値目標を達成することではなく、そこに至る過程で農家を動かすノウハウをどれだけ蓄積して活用できるようにするかである。目標にたどり着くためのプロセスを重視すべきで、評価もそのようにあるべき。見えない部分をみるのが大切と思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及活動の評価については、定性的な評価、定量的な評価が重要であるので、経営に関する計数的な把握や分析、プロセス評価を十分していきたい。</li> </ul>
	残された課題	<p>関係機関と連携でき、農家の変化が表れていると思うが、成果が出ているかと言われるとまだまだではないか。新規就農者が普及指導員と十分なコミュニケーションを取り、長く農業を続けているよう指導をお願いしたい。</p>
<p>先人が積み上げた成果を受け継いで、次の人にバトンを渡すという普及の継承の重要性が指摘された意義は大きい。そうすると、成果の評価はどのようにすべきかを検討する必要がある。各地域で課題があり、それに取り組んできた長年の過程を改めて振り返って評価することが重要ではないか。あまりに短期的な数値目標で成果を語ろうとする流れは良い結果につながらないように思える。取り組んできた課題の流れを各担当で振り返ることを是非やっていただきたい。それをするによって将来展望の軸がみえるのではないか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>普及指導基本計画は5年後のあるべき姿を目標とした計画としており、毎年度の普及活動の成果を蓄積して、5年目に総合的な評価を行っている。その評価を基にして、次期の普及指導計画を策定していく。</li> <li>引き続き、農家や産地とともに長期的な展望を共有しながら、普及活動を展開していく。</li> </ul>
<p>新規就農者の確保・育成・定着は喫緊の課題であり、尾張の成功事例をモデル化して他地域へも地域事情を考慮しつつ水平展開していただきたい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>成功事例については、今回の評価会議の他に、普及事例を検討する研修などの場で共有するとともに、マニュアル化している。今後も引き続き、成功事例の水平展開に努めていく。</li> </ul>
<p>対象となる農家群（層）の性質を析出する必要がある。興味を持つ農家層や大きな効果が期待される農家層は、どのような経営かを踏まえる必要がある。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>普及活動の対象として、活動内容を考慮した上で、地域において技術レベルの高い農家やリーダー的資質を持ち波及効果が高い農家を選定している。今後も、効果的な普及活動となるよう、地域の農家を見渡して対象を選定していきたい。</li> </ul>

活動対象	<p>指導員の方の問題ではなく、<b>農業者がどこまで指導員の方の課題に対して理解をしているのか</b>、発表を聞いて非常に心配になった。おだてて育てると発表され、それを参加されている皆さんが実感しているような場の雰囲気、農業者自身が現状に危機感を持っていないということが予想できた。</p> <p>必ずしも普及機関が主体となる必要はなく、<b>場合によっては自治体や農協が主体となっている取組を支援する形も評価されるべき</b>。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及活動の方法として、農家に働かせて「気づき」をもってもらい、自律的に改善活動に取り組むよう支援している。</li> <li>普及活動は関係機関と連携して進めている。普及が自治体、農協とどのように役割分担して、どう関わったかを、わかりやすく伝えて評価を受けていきたい。</li> </ul>
評価期間	<p>課題の実態分析を踏まえて、多角的にアプローチすると、<b>3年程度の活動期間では短いのではないか</b>。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及指導基本計画は5か年の計画を策定し、毎年度の普及活動の成果の蓄積から、5年目に総合的な評価を行い、さらにこの評価を基にして、次期の基本計画を策定している。</li> <li>外部評価については、「3年に1回、すべての課題に対して実施する」としているが、普及計画は、策定前から様々な調整や準備を行っており、そのあたりを考慮して評価していただきたい。</li> </ul>